

## 水稻の生育状況と今後の管理対策（第2号）

令和2年6月11日  
新潟県農林水産部

### 〔6月10日現在の生育状況〕

#### コシヒカリ

◎ 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

#### 新之助

◎ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

(参考) こしいぶき、つきあかり

○ 長岡市に設置した調査ほ場では、いずれも指標値より茎数が多く、生育量は十分確保されている状況です。

### 〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎ 6月4日発表の1か月予報（6月6日から7月5日まで）によると、平均気温は平年より高く、特に期間の前半はかなり高くなると予想されています。

◎ 北陸地方は6月11日ごろに梅雨入りしたと見られます（平年は6月12日ごろ）。

◎ 平年に比べ気温は高い傾向が続く見込みであることから、梅雨入り後の降雨と曇天により、草丈と茎数の急激な増加が懸念されます。

### 〔管理対策のポイント〕

#### 早生品種

◎ 中干しの効果を高め、根の健全化やほ場の地耐力の向上を図り、フェーン等の緊急時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施してください。

◎ 多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

### コシヒカリ

- ◎ 中干しの開始が遅れているほ場が多く見られます。ただちに中干しを開始してください。
- ◎ 中干しは、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度とします（4ページ参照）。
- ◎ 生育量が指標値に比べ大きくなっているほ場では、強めに中干しを行い、茎数の増加を抑えてください。
- ◎ 高温が続き、田面に大きなヒビが入ることが想定される場合には、走り水かん水を行ってください。
- ◎ 中干しの効果を高め、根の健全化やほ場の地耐力の向上を図り、フェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施してください。
- ◎ 溝の間隔は約3m（10条に1本程度）、溝の深さは10cm以上とします。タテ溝とヨコ溝を連結し、必ず水口と水尻につないでください。

### 新 之 助

- ◎ 茎数が増えやすい品種特性がありますので、「食味・品質基準」を達成するため、中干しにより適正な生育に制御してください。  
特に、化成の全量基肥肥料\*2では、茎数がより増えやすいので、十分に注意してください。
- ◎ 今後も気温の高い状況が続く見込みです。茎数を確実に確認し、中干しを遅れずに実施するとともに、溝切りも確実に実施してください。
- ◎ いもち病抵抗性は強くありません。いもち病の箱施用剤を使用していない場合は、必ず葉いもち防除を行ってください。
- ◎ 補植苗は、葉いもちの伝染源になるので、速やかに除去してください。

### 熱中症予防

- ◎ 平年より最高気温がかなり高い日が続く見込みです。
- ◎ 溝切りなど、屋外での農作業では飲料水や日陰を十分に確保するなど、事前の熱中症対策を進め、健康管理に十分注意してください。

\*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと

\*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

- ◎ 今後の管理対策発信予定日

6月19日、7月1日・9日・21日・28日・31日、8月21日、9月11日

## 〔補足資料〕

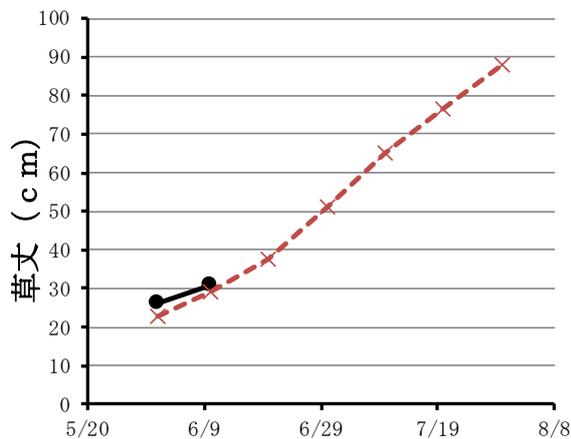
### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月10日現在）

#### コシヒカリ

- 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

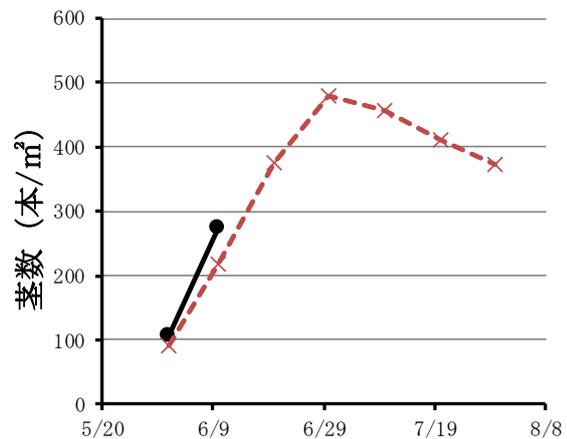
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	31 cm	29 cm	やや長い	107%
茎数	274 本/m <sup>2</sup>	218 本/m <sup>2</sup>	多い	126%
葉数	7.5 葉	6.8 葉	早い	+0.7 葉
葉色 (SPAD 値)	37.3	36.7	並	+0.6

注) 県内全域の 117 生育調査ほデータの平均値 (田植え 5 月 10 日、栽植密度 16.9 株/m<sup>2</sup>)



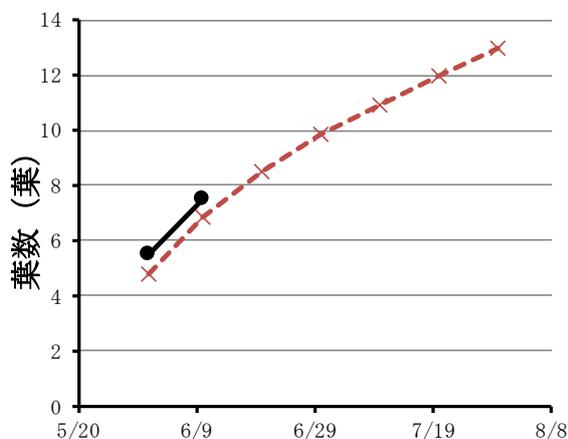
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



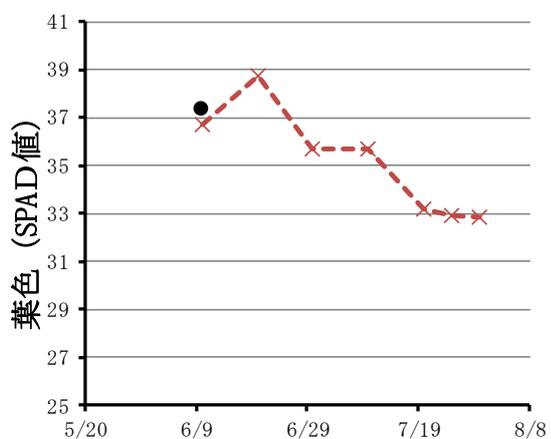
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



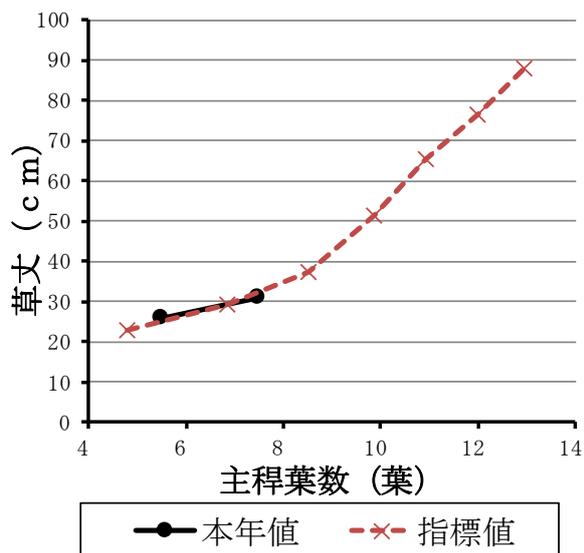
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

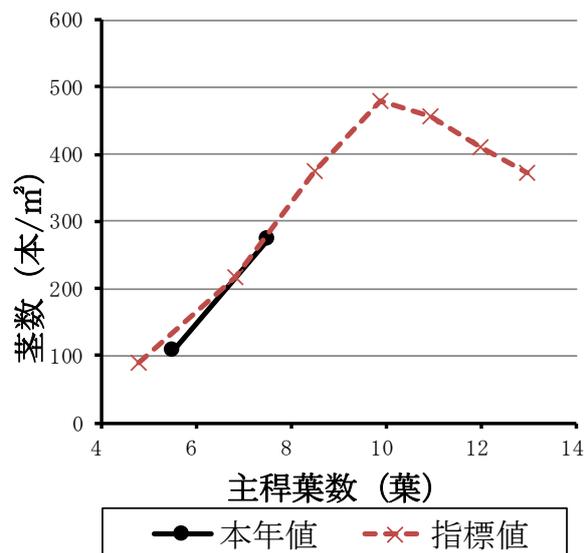


● 本年値    -x- 指標値

葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)

- ◎ ただちに中干しを開始する。
- ◎ フェーン等の緊急時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施する。
- ◎ 生育量が大きくなっているほ場では強めの中干しを行い、茎数の増加を抑制する。



中干しの強さは、小ヒビが入る程度  
(上の写真程度)。



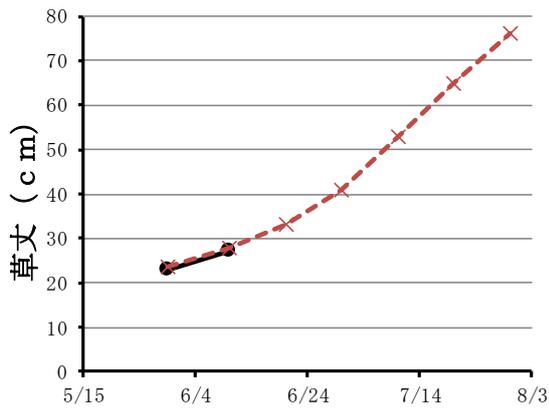
乾かしすぎて大ヒビが入ると、根の  
切断や発根が抑制される。

## 新之助

○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

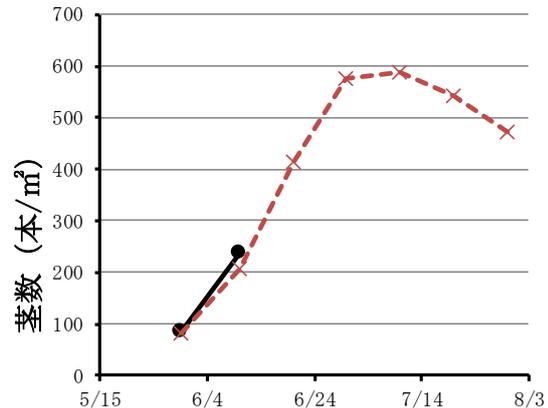
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	27 cm	28 cm	並	96%
茎数	238 本/m <sup>2</sup>	207 本/m <sup>2</sup>	多い	115%
葉数	7.2 葉	6.8 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	36.9	36.0	並	+0.9

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月17日、栽植密度16.4株/m<sup>2</sup>)



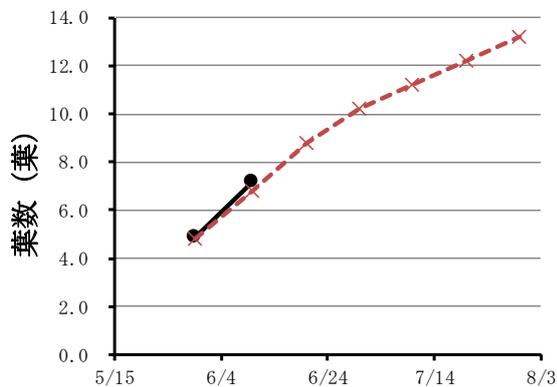
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移



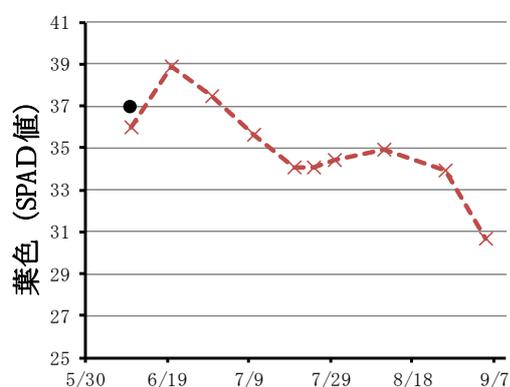
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉色の推移

- ◎ 化成の全量基肥肥料では、茎数が増加しやすいので注意する。
- ◎ 茎数を確実に確認し、中干しを遅れずに実施する。
- ◎ いもち病の箱施用剤を使用していない場合は、必ず葉いもち防除を行う。
- ◎ 補植苗は速やかに除去する。

## こしいぶき

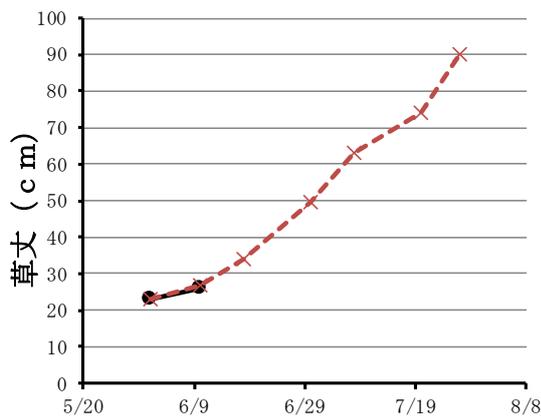
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	26 cm	27 cm	並	96%
茎数	379 本/m <sup>2</sup>	326 本/m <sup>2</sup>	多い	116%
葉数	8.1 葉	7.6 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	41.9	39.9	濃い	+2.0

注1) 化学肥料栽培 田植え5月11日、栽植密度は19.8株/m<sup>2</sup>

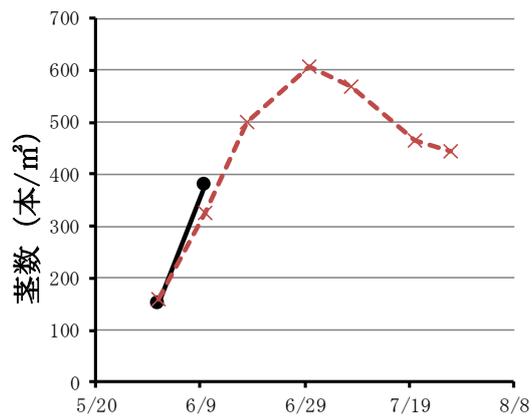
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



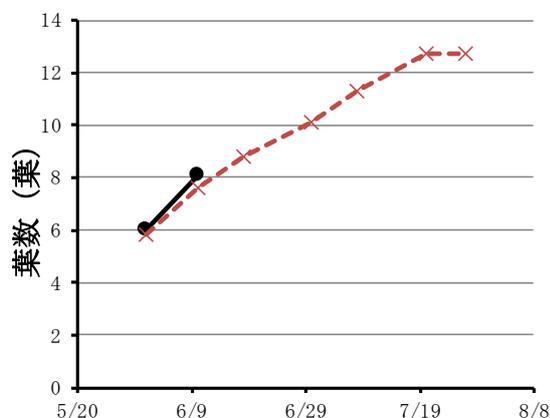
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移



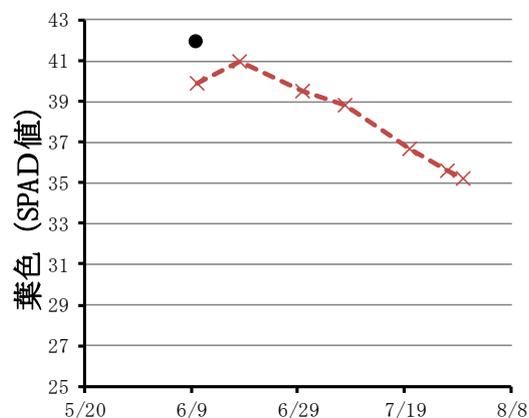
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉色の推移

## ゆきん子舞

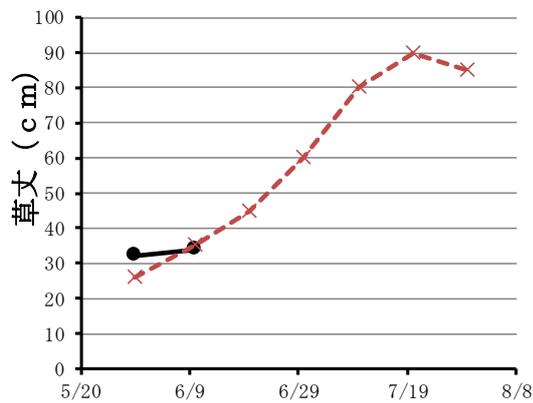
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	34 cm	35 cm	並	97%
茎数	353 本/m <sup>2</sup>	380 本/m <sup>2</sup>	やや少	93%
葉数	8.4 葉	8.0 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	41.8	40.0	やや濃い	+1.8

注1) 化成肥料栽培 田植え5月1日、栽植密度は18.6株/m<sup>2</sup>

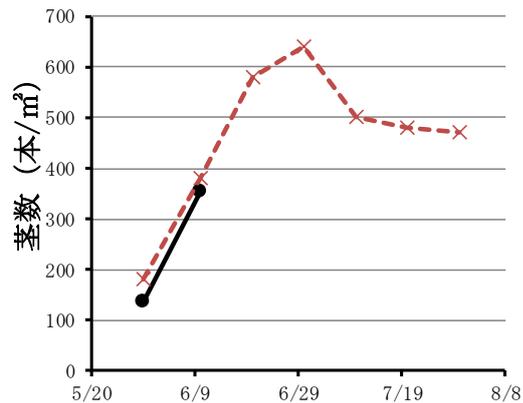
注2) 基肥窒素成分量 2.8kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ



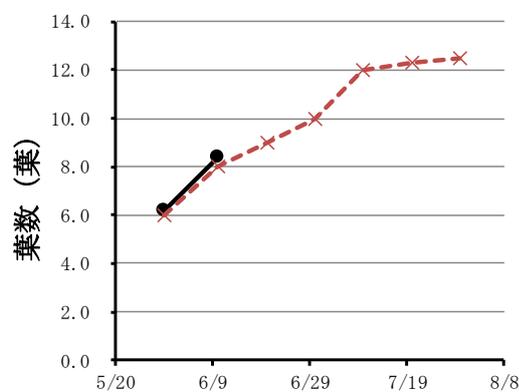
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移



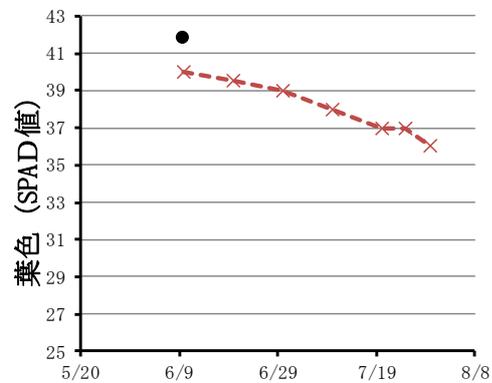
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉色の推移

## つきあかり

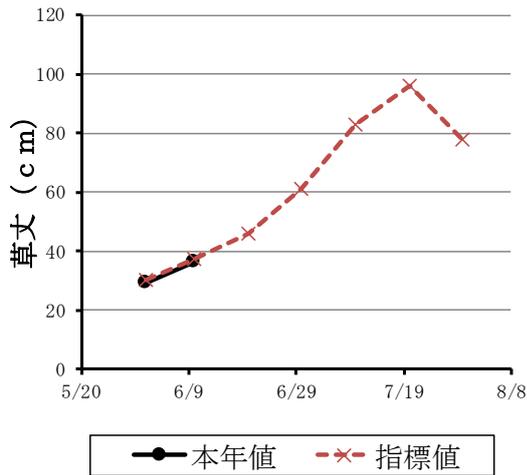
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みと葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	36 cm	37 cm	並	97%
茎数	348 本/m <sup>2</sup>	300 本/m <sup>2</sup>	多い	116%
葉数	8.1 葉	7.8 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	41.6	42.0	並	-0.4

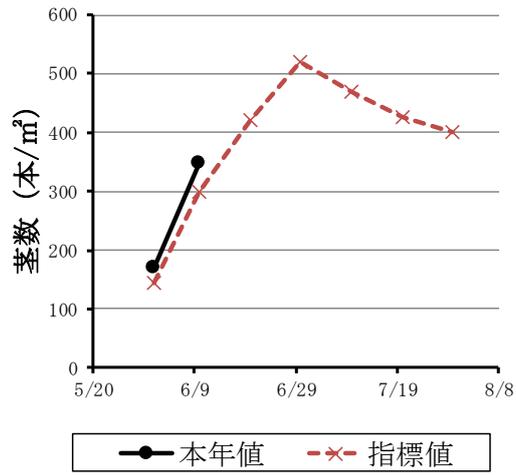
注1) 化学肥料栽培 田植え5月7日、栽植密度は21.2株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

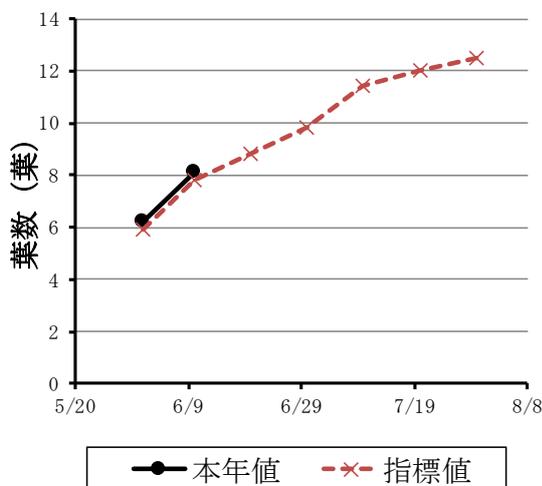
注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



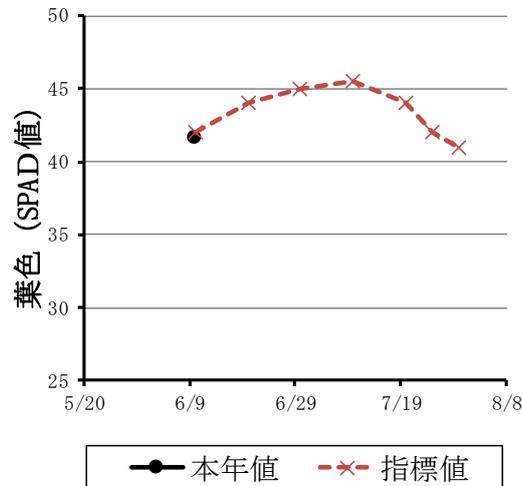
草丈の推移



茎数の推移



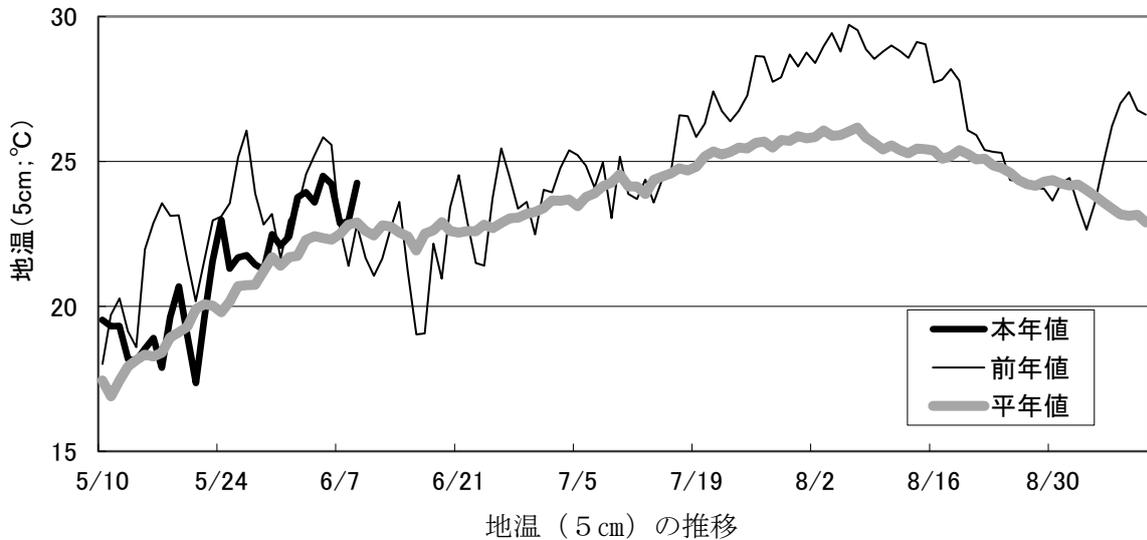
葉数の推移



葉色の推移

## 2 ちりよく 地力窒素の発現状況

○ 6/1～6/9の期間の日平均地温は平年差+1.3℃ですが、この期間の地力窒素の発現量は、前回の数値が高かったため平年より少なく、条間窒素は平年並に推移しています。



地力窒素の発現状況 (農総研基盤研究部調査)		(mgN/100g)	
	5月31日①	6月9日②	地力窒素発現量※1 (③=②-①)
本年値	3.5	3.6	0.1
前年値	4.7	5.5	0.7
平年値	2.9	3.4	0.5

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※2 化学肥料でN成分3.5kg/10a施用。移植日：本年5月11日（平年5月10日）。

